

今回で最終回となりますが、一番ご質問の多かったものを取り上げました。

Q3 「佐渡島」は何と呼んだらいいのか

A 「サドシマ」と呼んでいるのは、国土地理院と海上保安庁が作成した標準地名集や決定地名集、文部科学省などです。それに対して「サドガシマ」と呼ぶのが、国土交通省と外務省が関与する世界地図のスタンダード版、離島振興関係指定離島の地域名などです。

佐渡は江戸時代までは「佐渡国」(さどくに)です。海上保安庁海洋情報部の調べによれば、明治19(1886)年に作成された『寰瀛水路誌第二巻下』(寰瀛(かんえい)、「ひろいうみ」の意味です)の「Sado island」という表現が使われています。これは日本が開国した当時、幕府がイギリスに伊能忠敬の地図を渡し、これをもとに海図が作成されたことによります。その後、明治24(1891)年に『海図248号』が作成され、「佐渡島 SADO ISLAND」と表記されています。明治30(1897)年に出版された『日本水路誌第四巻』には「佐渡島 Sado shima」のローマ字表記のフリガナがふられました。これが「サドシマ」の呼称の由来と考えられます。

次に「サドガシマ」の呼称ですが、佐渡

博物館が所蔵している古くからの佐渡観光パンフレットをみると、圧倒的に「佐渡」が使われています。しかし昭和40年頃から観光ポスターやパンフレットに、「佐渡ヶ島」(サドガシマ)という表現が使われるようになります。これは佐渡を訪れた文人墨客(ぶんじんぼっかく)たちがそう呼び、また、「流人の島、佐渡ヶ島」などのように、観光地のイメージ戦略として「ヶ島」(ガシマ)が使われたようです。これを地元の慣用的呼称と前述の公的機関が判断したために、「サドガシマ」の呼称も公的に採用されたと思われま

す。このように島名のみみ方について考えられました。皆さんはどう思われますか。皆様のご意見をお待ちいたします。



佐渡市指定文化財 柴田収蔵世界図 (しばたしゅうぞうせかいず)

(参考資料:国土交通省 国土地理院 近畿地方測量部資料、海上保安庁海洋情報部資料、『日本の島ガイド』(財)日本離島センター、他)

佐渡伝統文化研究所だより 寄贈ありがとうございました

泉の羽入正路さん、千種の笠井正明さん、加茂歌代の澁谷龍生さん、群馬大学元教授西垣晴次さんから、それぞれ佐渡伝統文化研究所に佐渡に関する資料を寄贈していただきました。大変ありがとうございました。

羽入さんからは佐渡の郷土史に関する基本文献(約220点)、笠井さんからは近代における教育資料(約30点)、澁谷さんからは近代における農業資料、教育資料、文芸資料(合計約450点)、西垣さんからは古文書資料(マイクロフィルム3巻、調査カード・写真等、約50点)です。

今後、調査・研究の上、末永く市民の皆さまに活用できるようにしていく予定です。

世界遺産・文化振興課 佐渡伝統文化研究所 27-4170

アミューズメント佐渡 イベント情報

誰も知らない佐渡 天野尚写真展

11月23日(金・祝)~12月2日(日) 9:00~20:00 最終日は15:00まで

11月23日(金・祝) 9:30~オープニングセレモニー 10:00~天野尚さんによる解説会 会場:アミューズメント佐渡

入場無料

佐渡—海底から原始の森へ

東京・新潟の写真展で大好評だった天野尚さんの「誰も知らない佐渡」写真展を2回に分けて展示します。

今回は第1回目。第2回は3月1日(土)からです。マイナス40メートルの海底から標高1000mを越える原始の森まで誰も見たことのなかった佐渡の姿をご覧ください。



主催:誰も知らない佐渡写真展実行委員会 お問い合わせ:アミューズメント佐渡 ☎52-2001